令和６年度　能登町立鵜川小学校
学校評価だより（最終）
令和７年２月発行

日頃よりご支援・ご声援を賜り心より感謝申し上げます。学校評価の最終評価をまとめましたのでお知らせいたします。今後も鵜川小学校の更なる活性化に向け、保護者・地域の皆様と共にがんばっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

令和７年２月２０日　能登町立鵜川小学校長　冨水　知子

令和6年度　第2回 学校評価（1月 最終評価）　能登町立鵜川小学校

重点目標	自己評価						備考
	評価項目	具体的取組	評価指標	評価：達成度判断基準	取組の状況・結果	達成状況	
確かな学力	総合的な学力の向上	・学力調査の結果を分析して定着していない内容を授業や朝学習で補強する。 ・授業での学んだ知識や言語力を活用して思考、判断し表現する活動場面の設定。 ・国語検定、算数検定の取組	【成果指標】 各種・学力調査の結果が県及び国の平均を上回っている。	全国学力学習状況調査・県基礎学力調査の結果が県平均・町学力調査の結果が国や県平均を上回っている教科が全体の A: 60%以上 B: 50%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	12月実施の CRT テストは各学年、国語と算数で行った。全 12 教科中、全国平均を上回った教科は、8教科だった。2学期から、勤堂タイムを中心に基礎基本の定着を目指して取り組んできた。また、11月の家庭学習パワーアップ週間では、家庭学習の目標時間の達成率は95%で、6 月に比べて大きく向上した。	中間 B 最終 A	主担当：大谷 評価方法： 学力調査 4 月・12月 CRT 評価実施時期： 8月、1月
	学力向上プランの推進	・考えを伝え合う場の設定 ・適切に表現するための活動の設定 ・自分の考えを書く場の設定 ・相手意識をもって話す・聞く指導	【満足度指標】 相手の話をしっかり聞いたり自分の考えを伝えたりすることができる力が児童に身に付いている。	学習アンケートで「自分の考えをわかりやすく書いたり話したりすることができた」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	学習アンケートにおいて肯定的な評価は、88.4%だった。2学期は具体的取組を修正し、キーワードに限定せず、適切に表現するための活動を授業者が児童の実態に合わせて工夫することにした。また、必ず自分の考えをアウトプットする場を設定した。今後も継続して取り組み、表現力の向上を目指す。	中間 B 最終 B	主担当：大谷 評価方法： 児童に対する学習アンケート 評価実施時期： 7月、1月
豊かな心	明るい挨拶があふれる学校づくり	・縦割り班での「あいさつ運動」を継続し、よい挨拶をしている児童を全体に紹介することで、挨拶の習慣の定着を図る。	【満足度指標】 児童がすすんで挨拶する習慣が身に付いている。	児童アンケートで「いつも大きな声で気持ちのよいあいさつをしている。」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が A: 児童の90%以上 B: 児童の80%以上 C: 児童の70%以上 D: 児童の70%未満	中間結果では肯定的評価が 87.9%だったのが、最終結果では 95.3%とポイントが上がった。2 学期から縦割り班でのあいさつ運動の回数を減らしたのだが、教室でのあいさつに対する教師の声掛け、職員室への朝と帰りのあいさに対する職員の声掛け、代表委員会による取組等が日々のあいさつに対するプラスの評価につながった。	中間 B 最終 A	主担当：吉村 評価方法： 児童アンケート 評価実施時期： 7月、1月
	良好な人間関係の構築	・勉強や行事等で、各自に目標を持たせ、粘り強く取り組むようにする。 ・相手の気持ちを考えた思いやりの心を育む取り組みをしていく。	【満足度指標】 児童が学校生活の中で友達と仲良く勉強したり遊んだりしていると感じている。	児童アンケートで「友達と一緒に遊んだり、活動したりするのは楽しい。」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が A: 児童の90%以上 B: 児童の80%以上 C: 児童の70%以上 D: 児童の60%以上	中間、最終結果共に、肯定的評価が 100%という成果につながった。2 学期の学習、学習発表会を始め、特別な行事への取組等、子供たちが主体的に取り組む場面が多く、個々が目標達成に向けて学校生活を送ることができたと考える。休み時間、縦割り班活動、交流授業など児童の関係も深まった。	中間 A 最終 A	主担当：山本 評価方法： 児童アンケート 評価実施時期： 7月、1月
健やかな体	体力の向上	・年間を通してスポチャレいしかわの種目に取り組む。 ・体育の時間に、児童の体力が高まるよう、運動意欲と技能の向上、運動時間の確保に努める。 ・マラソン大会に向けて、持久力をつける取組を計画的に取り入れていく。	【成果指標】 体力テストの２項目において、県平均や昨年度の平均記録を上回っている。	体力テストの「立ち幅跳び」「反復横跳び」の平均記録が、県平均を上回っている学年（部門）の割合が A: 70%以上 B: 60%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	1月に「立ち幅跳び」、「反復横跳び」の測定を行った。(3年男女、4年女、5年男女、6年男女) 立ち幅跳び、反復横跳びともに、5／7の割合で県平均を上回っていた。どの学年も平均記録は伸びていたが、5、6年男子で県平均を超えられなかった。 運動意欲は高まっているが、運動技能、能力が平均に達していない。震災での影響も大きく、運動能力指数も低下しているため、今後も体育科を中心とした体力アップを図っていきたい。	中間 B 最終 A	主担当：梅木 評価方法： 体力テスト「立ち幅」「反福横跳び」 評価実施時期： 6月、1月
	健康教育の推進	・毎月「元気ハッピー貯金」を行い、規則正しい生活習慣を身につけさせる。 ・早寝・早起きの大切さ、メディアの使用時間等を指導する。 ・朝ごはんの大切さや食事のマナー等の食育を行う。	【満足度指標】 学校での指導や家庭での働きかけの結果、子ども達の生活習慣が向上している。	保護者アンケートの「子どもは、ゲームやインターネットの約束を守っている」という項目に肯定的に回答した保護者が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	中間評価では肯定的な評価が 82.9%であったが、最終評価では73.8%と低下した。保健指導だけではなく、「元気ハッピー貯金」や「わがやのメディアルール」など家庭と連携した取組の工夫を今後も行っていく必要がある。	中間 B 最終 C	主担当：藤澤 評価方法： 保護者アンケート 評価実施時期： 7月、1月
安全・安心な学校	安心できる学校	・児童理解の会での共通理解や共通指導を徹底し、児童のよりよい人間関係の構築に努める。 ・学習目において、個に応じた指導を行う。 ・子どもの自己肯定感を高める取組をしていく。	【満足度指標】 自分のよいところやがんばっているところに気付き、自己肯定感が高まっている。	児童アンケートで「先生は、自分のよいところやがんばっているところをほめてくれる。」をいう項目に肯定的に回答した児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	中間結果では肯定的評価が 97.5%だったのが、最終結果では 97.7%となった。しかし、中間評価では A 評価が 63.4%、B 評価が 34.1%だったのに対し、最終評価では、A 評価が 69.8%、B 評価が 27.9%、と強く肯定できる児童が増えた。学習面、生活面どちらにおいても子供たちにプラスの声掛けを全職員で日々してきたことがつながっていると考えられる。今後も児童を学校全体で見守り、指導していくようにする。	中間 A 最終 A	主担当：吉村 評価方法： 児童アンケート 評価実施時期： 7月、1月
	安全な学校	・避難訓練を通して非常災害発生時の避難行動の仕方を身につけさせる。 ・保護者が連絡、相談したことに対して、誠意を持って対応している。 ・「報告・連絡・相談」の徹底を図り、迅速に対応していく。	【満足度指標】 保護者が学校の情報について、情報を迅速に発信していると感じている。	保護者アンケートで「学校は、緊急メールやお知らせなどで、迅速に情報を発信している。」に対し、肯定的な回答をした保護者の割合が、 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	避難訓練に関しては、1 年間に計画されていた 5 回の訓練と保護者の要望から実施した防犯訓練を合わせ、計 6 回行った。今後も地域の状況に合った訓練を行っていく必要がある。 今年度は、緊急メールで災害後の児童の状況確認フォームや不審者情報、テレビ報道に関する情報を発信している。安全につながるタイムリーな情報の発信を今後も行っていく。	中間 A 最終 A	主担当：髙山 評価方法： 保護者アンケート 評価実施時期： 7月、1月
家庭地域との連携	地域の教育力の活用	・地域人材を活用し、地域の特色を生かした授業実践を行う。	【満足度指標】 生活科、総合的な学習、道徳などの授業で、地域の人材を活用する授業を行っている。	職員アンケート「地域の素材をもとに学習活動を行ったり地域人材を活用したりして「ふるさと教育」を積極的に展開している。」に対し、肯定的な回答をした職員の割合が、 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	里海教育（海洋教育）を中心に、地域人材・教材を活用できている。これまでの活動の積み重ねから協力してくださる地域人材が多い。職員は毎年入れ替わっていくので、引継ぎ・リストの保存等が必要になってくる。 毎年似たような活動が続いているともいえる。今後は、教師一人ひとりが地域人材やモノを新たに発掘することも必要である。	中間 B 最終 B	主担当：松橋 評価方法： 職員アンケート 評価実施時期： 7月、1月
	学校情報の積極的な公開と家庭・地域への適切な説明	・学校だよりや学級だよりの発行、ホームページの充実により、保護者が学校経営方針や教育内容を理解できるように努める。	【満足度指標】 保護者が学校の教育方針や児童の様子が伝わっていると感じている。	保護者アンケートで「学校は、学校だより、ホームページなどを通じて、学校での教育活動の様子を積極的に伝えている。」に対し、肯定的な回答をした保護者の割合が、 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	最終評価も保護者アンケートでは100%の肯定的な評価をいただいた。今後も学校だよりやホームページなどでは、学校の教育活動の様子を伝えていく。しかし、学級だよりの発行数の学級差はある。月に一回は、学級の様子を伝えるように各担任と確認していく。	中間 A 最終 A	主担当：髙山 評価方法： 保護者アンケート 評価実施時期： 7月、1月
組織力向上と働き方改革	組織力向上	・校内研修や授業研究などを通して授業力の向上を図っている。 ・校務分掌や得意分野において意欲的に取り組んでいる。	【満足度指標】 校務分掌において意欲的に取り組んでいる。	職員アンケート「校務分掌や得意分野において意欲的に取り組んでいる。」に対し、肯定的な回答をした職員の割合が、 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	どの校務分掌担当者も、提案→修正→実施と児童の実態に応じて柔軟に対応していた。また、担当者の不得手な面は、他の職員の協力を得ながら組織的に行っていた。 授業研究においては、職員の意見を取り入れ、児童の学力に応じて PDCA サイクルを回し授業力向上を図ることができた。	中間 B 最終 A	主担当：梅木 評価方法： 職員アンケート 実施回数 評価実施時期： 7月、1月
	働き方改革の推進	・校務分掌の平準化と担当の明確化を図り、意識改革を推進する。 ・公務支援システムの活用による業務改善を増やす。	【成果指標】 教職員が働き方改革を意識して効率的に業務を行い、時間外勤務時間を削減している。	月の平均退勤時刻が19時以前の職員の割合が、 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	目標退勤時刻「19 時」を達成した職員の割合の9～11月の平均値が 88.8%であった。中間評価と比べると、18.4%上昇している。負担の多い職員に対して他の職員がサポートに入るなど複数人での体制をできる限り作ってきた。今後も働きやすい環境を作っていく。	中間 C 最終 B	主担当：髙山 評価方法： 勤務時間記録表、職員アンケート 評価実施時期： 7月、1月